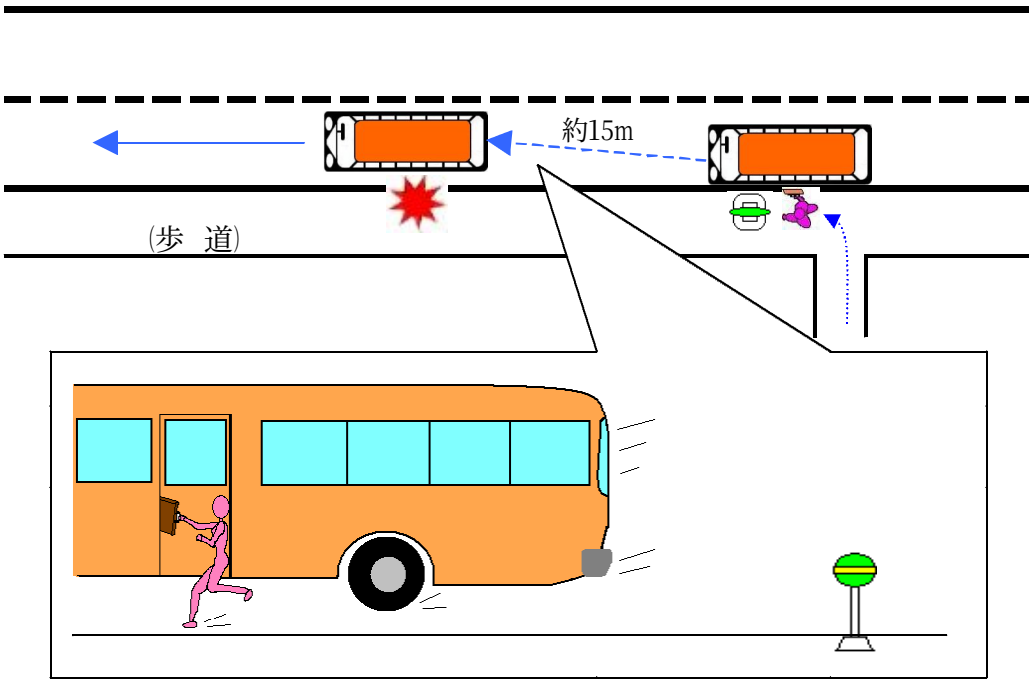
事故事例〔バ　ス　1〕

曜日･時間･天候	木曜日･12時10分･曇り
場　　所	市道のバス停留所
道路の状況	乾燥　幅員6．0 m
運　転　者	年齢59歳　運転歴36年3ヶ月
乗務開始～事故発生の乗務距離	76．8 km
損　　害	軽傷者1名

〔事故概要〕

バス停留所で1名の乗客扱いをし、乗車口扉を閉じて発車したところ、バス左後方より飛び乗ろうとした女子学生の鞄をドアを挟み、鞄を持ったままの女子学生を約15m引きずり、鞄が外れた拍子に転倒負傷させたが、これに気付くことなく運行を継続した。



種別・業態	普通･一般乗合
乗車定員	82名
当時の乗車定員	5名

【事故の推定原因】

- ○　視認による乗客乗車終了の未確認のため
- ○　鞄が布製で薄かったので挟んだ状態で乗車ドアが閉まり、ドアブザーも停止したため
- ○　発進直前及び発車直後に左後方（乗降口付近）の安全確認を怠ったため

【事故の要因】

- ○　乗降ドアの閉じ具合の確認をドアブザーに頼っていた
- ○　乗客が発車間際に当該車両の陰から駆け込み乗車した
- ○　発車直前及び発車直後の左後方の確認を怠った

【運転ミス要因（心身、態度、技術）】

- ○　乗客も少なく、慣れた路線であることから気が緩んでいた

【再発防止対策】

- ○　車内外に対する発車時の安全確認の確実な実施
- ○　鞄を挟んだ状態でのドアの開閉状態及びドアブザーの警報状態の周知
- ○　乗車口インターホンの活用の周知
- ○　乗務員に対する安全運行のための基本動作励行指導及び監督の徹底